



(題字 小黒千足 学長)

第337号

(平成4年9月・10月合併号)



▲ 地域における大学と社会との連携・協力の推進調査のためのイベント

「聴いて・見て・触れて——おもしろ夢大学 in TOYAMA——」

(平成4年9月12日(土) 於：地域共同研究センター・工学部)

目 次

学 内 諸 報

- ◆ 衆議院文教委員会が本学視察 3
- ◆ イベント「聴いて・見て・触れて
—おもしろ夢大学 in TOYAMA—
の実施 4
- ◆ 外国人留学生と教職員が一泊見学旅行
で交流 6
- ◆ 国際交流セミナー「外国人子女のため
の日本語教育」の開催 7
- ◆ 平成4年度富山大学公開講座の実施 8
- ◆ 経済学部長に吉原教授を再選 9
- ◆ 工学部「燦燦号」がソーラーカーラリー
・イン能登で快走 10

人 事 異 動 9

寄 稿 **海外レポート**

「ケンブリッジでの10ヶ月を振り返って」 11

— 教養部助教授 鈴木孝志 —

関 係 法 令 13

諸 会 議 13

学 内 規 則

- ◆ 富山大学自己点検評価規則の制定 15
- ◆ 富山大学自己点検評価委員会専門委員
会要項の制定 17
- ◆ 富山大学自己点検・評価に関する検討
委員会規則の廃止 18
- ◆ 富山大学教育学部附属学校規則の一部
改正 18
- ◆ 富山大学教育改革整備委員会規則の制
定 18
- ◆ 富山大学大学教育改善検討委員会規則
の廃止 19

叙 位 19

レクリエーション 20

海 外 渡 航 者 22

職 員 消 息 23

計 報 24

主 要 行 事 25



学内諸報

『衆議院文教委員会一行が富山大学を視察』



▲ 衆議院文教委員会の一行(右から3番目が伊藤委員長)

去る9月18日(金)、衆議院文教委員会委員長伊藤公介氏(自民党)外8名の衆議院文教委員会委員の一行が、富山大学を視察されました。

一行は、去る9月16日(水)～18日(金)の2泊3日の日程で、新潟・富山・石川3県を視察され、国立大学の教育研究の実情及び施設の整備状況など学校教育にかかわる4項目について調査されたもので、その一環で本学を視察されたものです。

当日は、今田事務局長が構内を案内した後、黒田講堂会議室において、小黒学長、各学部長、教養部長、附属図書館長、学生部長及び事務局長と昼食を挟んで、約1時間にわたって熱心に懇談が行われました。

懇談会では、小黒学長から、歓迎のあいさつがあった後、4年一貫教育を平成5年度から実施に移すべく鋭意検討していることなど大学改革への取組み状況を説明しました。また、各学部長から、それぞれ学部の当面している課題などが併せて説明されました。

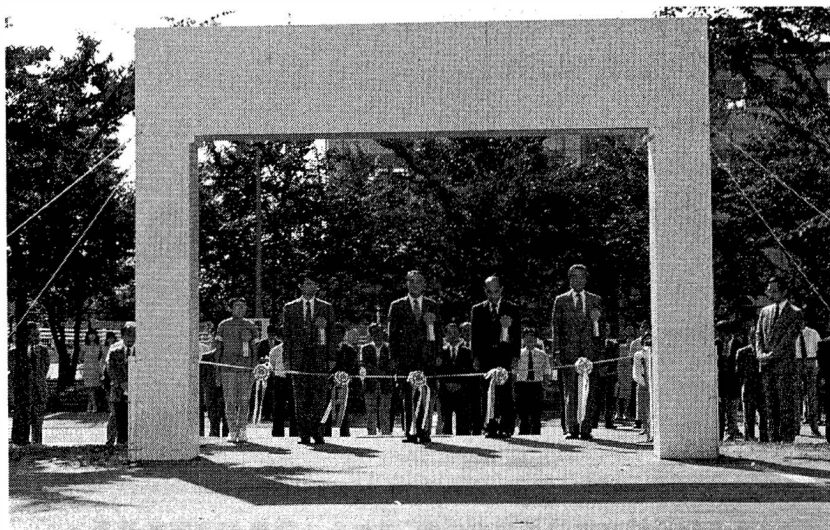
次いで、各文教委員から、大学教育の実態と取組み状況などについて質問されるなど大変有意義な懇談会となりました。



▲ 歓迎のあいさつをする小黒学長

平成4年9月12日(土)にイベント**『聴いて・見て・触れて—おもしろ夢大学 in TOYAMA —』**

— 予想を上回る入場者で好評を博す —



▲ 小黒学長らのテープカットで始まったイベント
(地域共同研究センター前)

学校週5日制の施行された去る9月12日(土)、本学地域共同研究センター及び工学部を会場に、イベント「聴いて・見て・触れて—おもしろ夢大学 in TOYAMA —」が開催され、企業関係者、地域住民及び小・中・高校生など1,000名を超える入場者に本学における自然系の英知を集めた研究状況を紹介しました。(表紙写真参照)

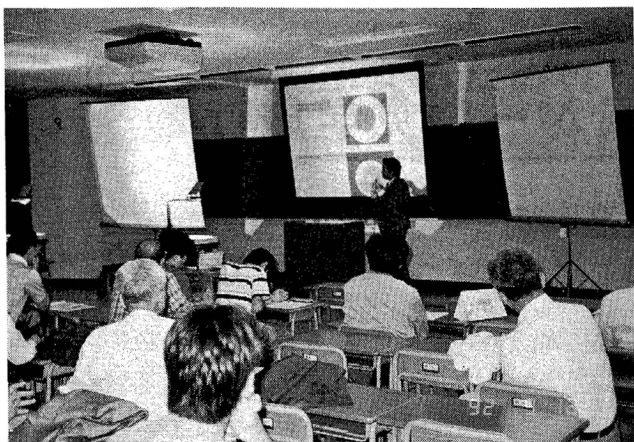
このイベントは、地域における大学と社会との連携・協力を推進するための在り方を探ることを目的として実施され、また、学校週5日制の実施に呼応して地元小・中・高校生にも参加が呼び掛けられたものです。

当日は、絶好の秋晴れに恵まれ、午前9時小黒学長ら5人のテープカットに続き、富山県立富山商業高等学校吹奏楽部によるドリル演奏で開会のセレモニーを行った後、12会場のそれぞれのコーナーで、学術講演、企業関係者を対象とした研究相談、研究紹介や各種の実験・観察及びパネル展示等が一斉に開始され、親子連れなど予想を上回る入場があり、分かり易く工夫して説明された最先端の研究紹介等に目を見張っていました。

紹介された主な研究内容は、「超電導いま・みらい」、「液晶の世界」、「夢の自動車ソーラーカー」、「いつでもみれるミクロ、原子・三次元の世界」、「ワークステーションっておもしろい」、「極低温の世界—マイナス200℃では何が起きるか—」、「たのしい化学反応」、「ひかりでみる生命のしくみ」、「化学と環境水」、「新しいエネルギーを考える」、「地磁気は気候を変えるか」など多彩でいずれも興味深いテーマが取り上げられました。

特に、マイナス200℃の液体窒素にテニスボールを入れ、そのボールを取り出した時の不思議な世界を目で実感した「極低温の世界」や今話題の夢の自動車「ソーラーカー—^{さんざん}燦燦号」の原理と体験乗車コーナーなどは、終日人垣に囲まれるなど大学における教育研究を知ってもらう絶好の機会となりました。

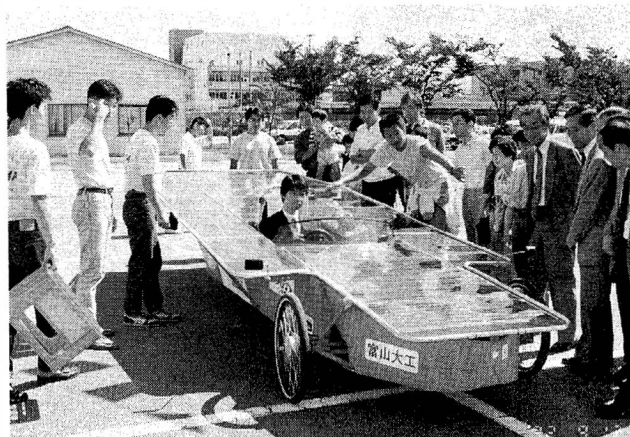
このたびのイベント開催は、大変好評で、学校週5日制施行のはじめての日にも対応した有意義な休日となりました。また、地域社会との連携・協力をより一層推進し、地域に根ざした大学としての使命を再認識させられたイベントでもありました。



▲ 学術講演「超電導いま・未来」に熱弁を奮う
田中靖三客員教授



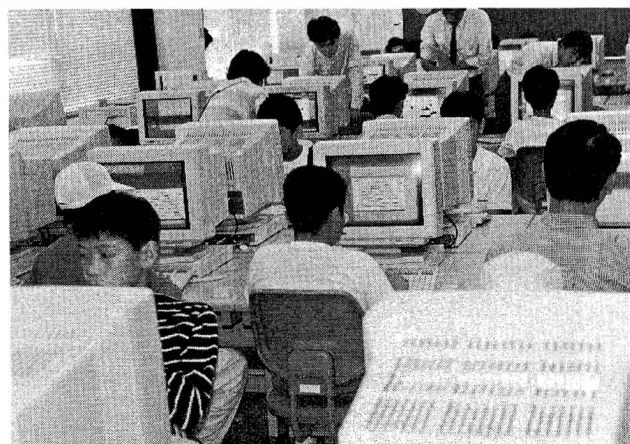
▲ 最新の研究紹介とパネル展示コーナー



▲ 手造りソーラーカーに試乗し、夢の自動車に想いを
馳せる入場者



▲ 極低温(-200℃)の世界では何が起きるか?

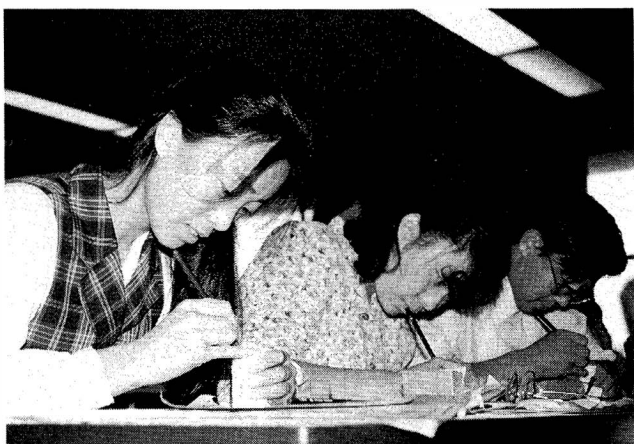


▲ ワークステーションっておもしろい!!

国立能登青年の家を主会場に

◎ 外国人留学生と教職員が一泊見学旅行 ◎

—— 合宿で一層の理解と交流が深まる ——



▲ 百済石の「てん刻」に真剣に取り組む留学生

去る9月28日(月)・29日(火)の両日恒例の「外国人留学生と教職員との見学旅行を兼ねた懇談会」が実施されました。

今年度は、国立能登青年の家を主会場に中国、マレーシア外7ヶ国の留学生及び外国人研究員70名が参加しました。また、大学側からは、増田学生部長をはじめ本学国際交流委員会留学生部会委員及び学生部・各学部等の留学生担当職員が参加し、大いに交流を深めました。



▲ アルミ建材の先端企業に目を見張る留学生

国立能登青年の家では、集団宿泊生活を通して規律ある生活体験をするとともに、研修として百済石を使った「てん刻」に挑戦し、思い思いの印鑑作りに真剣に取り組みました。また、和気あいの雰囲気随所に漂い、合宿の成果が出ました。

さらに、能登の「敵門」など厳しい自然を満喫するとともに、途中、「榑三協アルミニウム工業」と「北陸電力志賀原子力発電所」を見学し、我が国の先端企業にも触れることができました。

1泊2日と短い見学旅行でしたが、本学に在籍する外国人留学生と外国人研究員が教職員との一層の相互理解を深め、留学生相互の交流を図るとした初期の目的を十分果たした懇談会・見学会となりました。



▲ 教職員と打ち解けポーズをとる留学生

国際交流セミナー

『外国人子女のための日本語教育』が開催される!!

—— 年々増加する外国人子女教育の今後の在り方を討議 ——



▲ 富山市民プラザで開催された外国人子女教育国際交流セミナー

去る8月25日(火)外国人子女教育の今後の在り方を考える国際交流セミナー「外国人子女のための日本語教育」が、本学教養部日本語・日本事情研究室の主催で富山市民プラザ「アンサンブルホール」において開催されました。

このセミナーは、国際化の進展に伴い、近年、国内の学校で第二言語又は外国語としての日本語指導を必要とする外国人子女（海外帰国子女、中国帰国孤児子女、インドシナ難民子女及びその他外国人の子女）が年々増加しており、これらの子女に対する日本語指導が大きな問題となっている現状を踏まえて、学校教育における外国人子女教育の今後を考えることをテーマに開催されたものです。

午前の部は、主催者の本学教養部藤田正春助教授（担当学科目：日本語・日本事情）から開会のあいさつがあり、引き続き、日本語指導等の実践に関する研究報告として、

①「外国人子女教育の現状と課題」

茨城県つくば市立吾妻小学校長 佐々木 光雄

②「日本語学級について」

群馬県邑楽郡大泉町立西小学校教頭 関谷 岩夫

③「日系人子女に対する指導」

静岡県浜松市立泉小学校講師 アンナ・メーロ

④「華僑子女に対する指導」

神戸中華同文学学校長 曾 健脚

以上、国内における先進的な実践研究の4事例が報告され、その指導体制、指導方法及び問題点等が大きくクローズアップされました。

午後からは、午前の実践研究報告を踏まえて、シンポジウム「外国人子女教育の現状と課題」がパネルディスカッション形式で行われました。パネラーには、国際色豊かな次の5氏が登壇し、藤田助教授の司会で、諸外国における外国人子女教育の実状の紹介を含めて熱心な討議・意見交換が行われました。

ステファン・カイザー ロンドン大学研究課長

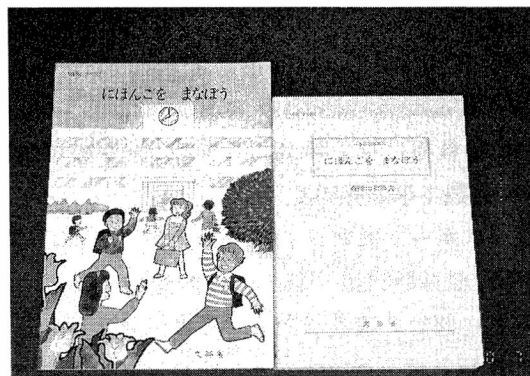
北村 房子 西町インターナショナルスクール元副校長

アルド・トリーニ パビア大学助教授

中島 和子 トロント大学教授

中西 晃 目白学園女子短期大学教授

この国際セミナーは、現在、外国人子女が多数在籍する学校に対する国費による教員加配が今年度から始まったこと、また、本年8月文部省から外国人子女のための日本語教材「にほんごをまなぼう」が刊行され、その指導のための講習会が開催されるなど行政的施策の動きが活発化してきているものの、緒についたばかりの外国人子女教育の今後を考える上で、大きな成果を得て盛会裡に終了しました。

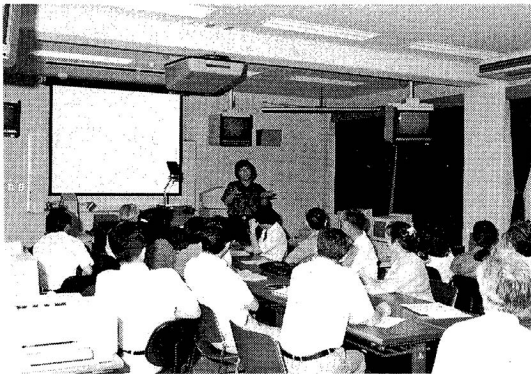


▲ このたび、文部省で作成された外国人児童生徒のための日本語指導教材「にほんごをまなぼう」とその指導書

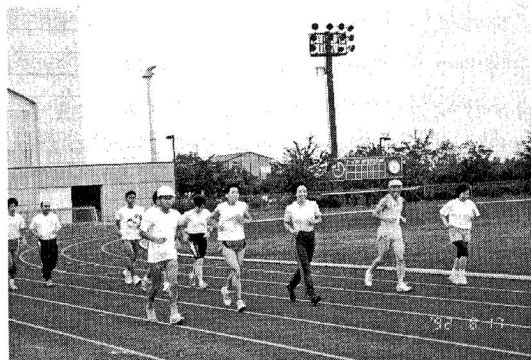
平成4年度富山大学公開講座を相次いで実施

平成4年度富山大学公開講座が8月10日(月)から実施されました。

「情報空間体験講座－遊びから創造へー」が8月10日(月)～8月31日(月)の8日間、富山大学教育学部附属教育実践研究指導センターで、また、「健康・スポーツ教室」(ジョギング・ランニングコース)が8月17日(月)～9月5日(土)の10日間、空港スポーツ緑地陸上競技場で、同じく、「健康・スポーツ教室」(硬式テニス初心者コース)が8月25日(火)～8月31日(月)の7日間、富山大学軟式テニスコートで実施されました。



▲ OHPを使った山西教授の講義を熱心に聴く受講生
(情報空間体験講座－遊びから創造へー)



▲ 山地教授にジョギング・ランニングの技法を
実践で学ぶ受講生
(健康スポーツ教室ジョギング・ランニングコース)

「情報空間体験講座－遊びから創造へー」においては、熱心に講師の講義を聴き、実際にコンピュータを使って体験学習を行いました。初めてコンピュータに触れる人も多くとまどいがちでしたが、講師からのアドバイスを受け一生懸命取り組んでいる姿が大変印象的でした。

「健康・スポーツ教室」においては全日程にわたり

天候に恵まれ、ジョギング・ランニングコースでは、ただ走るだけでなく楽しみながら走ることを前提に講義され、また、硬式テニスコースでは、テニスの基本やゲームの仕方を中心に講義があり、受講生はその講義をもとに実技に熱心に取り組み、それぞれがスポーツに対する認識を深めたように思われました。

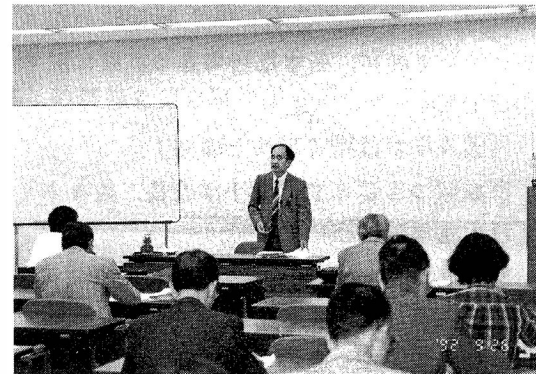
どの講座においても受講生には、生涯学習への意気込みが感じられ、また、大学教育の一旦に触れていただいたことにより、印象深く心に残る何かがあったものと思われました。

また、所定の課程の $\frac{2}{3}$ 以上出席した受講生には、修了証書が渡されました。

一方、「環日本海時代を考える」は、9月26日(土)～11月7日(土)までの毎土曜日(祝日は除く)に開催され、受講生たちは講義に熱心に耳を傾けていました。さらに、「健康・スポーツ教室」(硬式テニス初級者コース)は、12月21日(月)～12月25日(金)に開講され、本年度実施の公開講座がすべて終了することになります。



▲ テニスラケットを持って北村助教授の指導を熱心に
聴く受講生(健康スポーツ教室「硬式テニス初心者コース」)



▲ 「環日本海時代と国際交流」と題して、中藤教授の
講義を熱心に聴く受講生(講座「環日本海時代を考える」)



経済学部長に吉原教授を3選

— 任期は平成4年9月30日から2年間 —

吉原節夫現経済学部長の任期が、平成4年9月29日で満了したことに伴い、経済学部教授会は、平成4年8月26日(水)次期学部長候補者の選挙を行いました。その結果、吉原節夫現学部長が再選されました。任期は、平成4年9月30日から2年間。

吉原教授は、昭和30年3月富山大学経済学部卒業、昭和32年3月九州大学大学院法学研究科修士課程修了、同年4月富山大学経済学部助手となり、昭和36年4月同講師、昭和39年4月同助教授、昭和53年2月同教授に昇任されました。この間、富山大学評議員、さらに昭和63年9月から経済学部長を併任され、今日に至っています。専攻は物権法、富山県出身。

なお、吉原教授は、3期目に際して、次のように抱負を語っておられます。

- 大学院経済学研究科修士課程も平成4年度に完成年度を迎えたが、今後ますます充実、発展させたい。
- 富山大学施設整備の長期計画が早期に文部省の了解を得られるよう協力し、早く、経済学部の高層建物が着工できるよう努力したい。
- 平成6年に経済学部が、旧制高岡高等商業学校以来、創立70周年を迎えるため、その記念事業実施に努力したい。

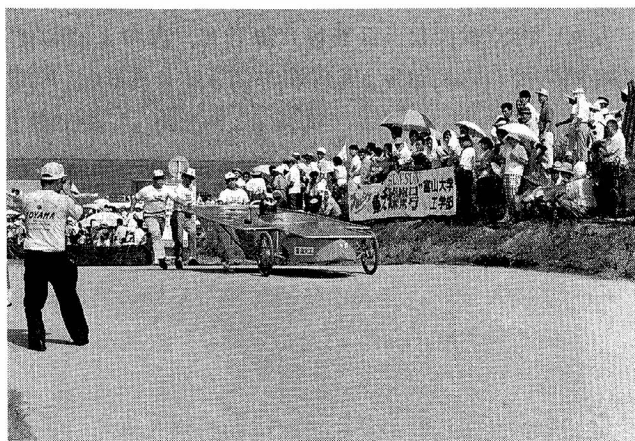
人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異動内 容
採用	4. 9. 1	田原 稔		助手(工学部)
	"	多胡 久		技術補佐員(経理部主計課)
	"	西野 英克		" (")
	"	山本憲一郎		" (")
	"	浅井 康広		" (")
	"	藤井 友美		事務補佐員(教育学部)
	"	林 敏和		" (附属図書館)
	"	中村 繁之		" (")
	"	高越 義一		" (")
	"	杉森真希子		" (")
昇任	4. 9. 1	佐々木基文	助手(工学部)	助教授(工学部)
辞職	4. 8. 31	山本 弘	助教授(経済学部)	辞職を承認する
採用	4. 9. 16	河岸 宏和		文部技官(教育学部)
	4. 10. 1	伊藤美重子		助教授(教養部)
	"	田端 尚史		文部事務官(庶務課庶務課)
昇任	4. 10. 1	竹浪 聰	助教授(岩手大学人文社会科学部)	教授(教育学部)
	"	濱屋 節子	文部事務官(附属図書館)	附属図書館閲覧係長
転任	4. 10. 1	油谷 幸利	助教授(人文学部)	助教授(愛知教育大学教育学部)
	"	二神 透	講師(工学部)	講師(愛媛大学教養部)
配置換	4. 10. 1	山田 正芳	附属図書館閲覧係長	附属図書館整理係長
辞職	4. 9. 30	小松 謙	助教授(教養部)	辞職を承認する
併任	4. 9. 16	森田 昌夫	文部技官(工学部)	施設課(～5. 2. 28)
	4. 9. 30	吉原 節夫	教授(経済学部)	経済学部長・評議員(～6. 9. 29)
	4. 10. 1	秋元 國男	附属図書館図書館専門員	附属図書館整理係長の併任を解除する
職務命令	4. 10. 1	濱屋 節子	文部事務官(附属図書館)	附属図書館参考係参考主任を免ずる

平成4年8月30日(日)

富山大学工学部燦燦号 健闘!!

——ソーラーカーラリー・イン能登——



▲ 大勢のギャラリーの見守る中スタートする「燦燦号」

去る8月30日(日)能登半島千里浜を会場に、「ソーラーカーラリー・イン能登」が開催され、このラリーに本学から初めて、工学部ソーラーカー「燦燦号」が出場し、熱い闘いを繰り広げました。

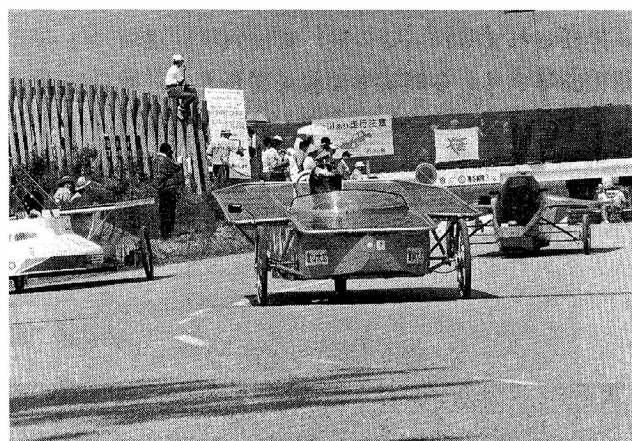
本学工学部有志(富山工燦燦会)チームの「燦燦号」は、周回競技の限定クラス(太陽電池800W以下・蓄電池(鉛)2Kwh以下)にエントリーしました。

今回が初の挑戦である富山工燦燦会チームは、数ヶ月前からスタッフを組み、連日電気棟横の仮設ピットで製作に汗を流しました。大会の数週間前、ようやくその素晴らしい雄姿を現し、工学部周回道路において入念なテストランを続けていました。

大会当日は、朝から青空の広がる絶好の大会日和となり、約15万人もの観客が見守る中、砂浜とアップダウンが続くコースに、各チームのソーラーカーが挑みました。また、多々工学部長を先頭に大応援団(家族連れ)も駆けつけ、大いに士気が高まりました。その大声援を受けて「燦燦号」は、アクシデントでリタイヤするものも多い中、トラブルもなく快調に最後まで周回(5時間で10周)を重ねました。

さて、気になる大会結果ですが、初出場のハンディ

をものともせず、周囲競技限定クラスでは14位(34チーム参加・1位はカリフォルニア州工科大学ポモナ校チーム)、周回競技総合(自由クラスを含む。)では23位(49チーム参加・1位はトヨタ自動車チーム)と健闘しました。



▲ トラブルもなく快調に周回する「燦燦号」

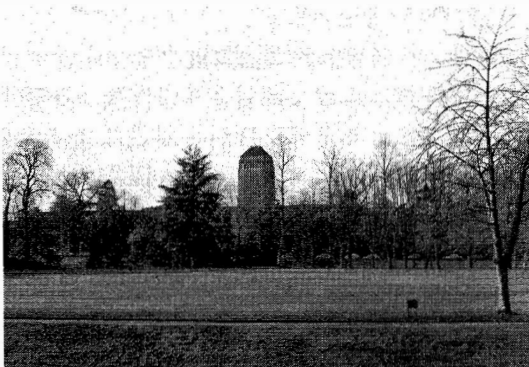


寄稿 海外レポート

ケンブリッジでの10ヶ月を振り返って

教養部助教授 鈴木孝志

平成3年度文部省長期在外研究員として、英国ケンブリッジ大学のダーウィン・コレジに滞在し、主としてケンブリッジ大学図書館を中心に現代英文学の調査、研究を行いました。この英文学という言葉には若干の説明が必要かと思います。といいますのも、私の専門とする作家はジェイムズ・ジョイスで、今回の調査、研究は、ノーベル文学賞詩人であるW. B. イェイツとジェイムズ・ジョイスとの間の影響関係、通常は極めて否定的に捉えられているこの現代英文学の生んだ二大巨人の関係を、芸術創造活動上の積極的、肯定的な側面から位置づけ直したいという目的でなされたものです。問題は、実はこの二人の巨人は、二人とも英国人（イングリッシュ）ではなく、アイルランド人（アイリッシュ）だということです。私が英文学という言葉を使うときには、英国（人）の文学という意味と、英語で書かれた文学というもう一つの意味を込めている、或いは常に意識しているということを理解していただけたらと思います（この議論は、果てしなく長い議論へと続いていくのですが、それは割愛）。そこで少し事情に通じている方は、「どうしてダブリンへ行かずにケンブリッジに行くのですか」と尋ねられたりするのですが、答えはいたって簡単、ケンブリッジ大学図書館や英国国立図書館の方が、ダブリンのトリニティ・コレジの図書館やアイルランド国立図書館よりも私の必要とする資料に限って言えば遥かに揃っているし、また、非常に効率よく仕事が出来るということに尽きます。



▲ ケンブリッジ大学図書館遠景

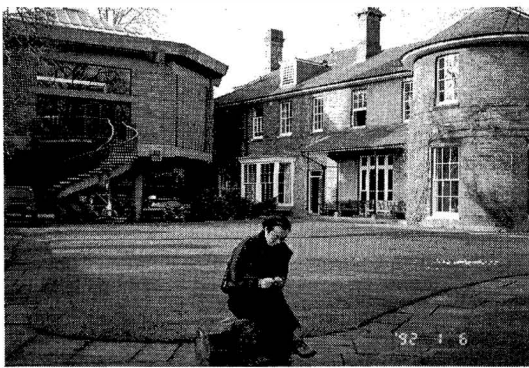
今回は、5年ぶりのケンブリッジ滞在であったのですが、コレジの重々しく、また美しい建物や緑豊かな

環境は変わりありませんでしたが、英国経済の不振の影響は、この静かな美しい町をも確実に襲っていました。職のない若者達が日中周辺の村や町から集まってきて、中心街で群れをなして暇つぶしをしている姿は、5年前には想像も出来ないことでした。物価もかなり高くなっていて、酒税と煙草税は大幅に引き上げられていました。スコッチは、下手をすると日本の安売り店で買う方が安く買えるし、煙草に至っては、一箱五百円以上します。所得税を切り下げた分そちらを上げているようですが、特に煙草は、低所得者層や無職の若者達の少ない楽しみの一つになっていますから、貧しい者にはダブルパンチです。

私の借りた家は、町の中心のすぐそばにある典型的英国風二階建て長屋の一角で、後ろには小さな庭が付いていました。町の中心には近いのですが、家のある通りは保存地区に指定されていて、とても静かで便利なところでした。ヴィクトリアンの建物で、百年以上はゆうに経っているのでしょうが、そこは煉瓦作りの家ですから、外見の古めかしさとは違って変わって、中はセントラルヒーティングが完備しています。家具は全て揃っていて、ベッドや布団は勿論、テレビから電気洗濯機まであります。これが英国式貸家の特徴です。ただし、家賃は私の予想を遥かに超えていましたが、ケンブリッジの友人達に聞いてみても、その家賃（1ヶ月475ポンド、それにサッチャー退陣の一因ともなった人頭税を18才以上の居住者は、各30ポンド毎月払わなければなりません。この税は、1993年春に廃止されます。）は、現在では妥当なものとのことでした。ロンドンでは、小さな一部屋が最低でも週百ポンド以上するのが当たり前とかで、今は東京だけが住み難い町ではなくなったようです。

今回の滞中で最も感じたことの一つは、日本への関心の高さです。5年前の比ではなく、かつては日本から外相が来英していても、何のニュースにもならず、後で日本の新聞を読んだ日本人の友人から知らされたりののですが、今回は、例えば海部首相が次の総裁選に立候補しないというニュースは、朝のBBCがすぐに伝えていましたし、ジャパン・フェスティバルに合わせてか「日本、言葉と人々」などというBBCの30分番組が土曜の午後6時に組まれていましたし、

怪しげな日本料理の番組もありました。大相撲が日本で報道されたほど人気を博したのかどうかは疑問ですが、日本人から見れば大飯喰らいの英国人が力士の食事の量に強烈に印象づけられたのは確かなようです。先日のブッシュ大統領の演説でクリントン候補を幾らでも歌う曲目を変えることの出来る「カラオケ」野郎だとけなしている部分がありましたが、「カラオケ」は今や立派な英語、そして日本料理を食べることや箸を使うこと、さらには、日本語のローマ字綴を日本流に読んでみせることなどが、中流階級ではファッションブルなことと看做されているようでした。これも驚きました。



▲ ダーウィン・コレジの中庭にて（筆者）

英国の国力が低下してきているのは、覆い隠せない事実です。特に、今問題となっていることの一つにホームレスの増加があります。このことは5年前にも取り上げられていた問題ではあるのですが、当時はまだまだごく限られた人々の抱えている問題だったのです。それが、今は無視できない数の人々が住むところもなく家族ごと収容施設に入っていたり、そこにも入れないと路上で暮らしています。5年前には、サッチャー政権は民有化政策で公営住宅を住民に払い下げ、また、民有化事業の株の公募などで庶民に財産所有意識を持たせることに成功し、総選挙に圧勝したのですが、その後のインフレと金利の急上昇でローンを払えない人たちが続出してしまったらしい。それと職が無いというのも深刻です。若者が、確たる当ても無しに機会を求めてロンドンなどの大都市へ集まってきて、結局は、路上生活者の数を増やしていきます。ローンが払えなくなった場合の救済措置を政府と住宅金融会社（これが庶民の高金利の預金先となっている。）とで考えていましたが、実際の効果はどうなっているのか気になります。失業問題からホームレス問題へと明らかに、問題の質が一ランク変化したといわねばなりません。それでも政権を奪えなかったところが労働党の苦しさです。

欧州情勢は緊迫しています。ユーゴ危機、欧州統一通貨、欧州連邦結成の問題、それとソ連の崩壊とロシアの経済危機と核管理、東欧難民の流入、イタリアのマフィア問題での混乱、ドイツの旧東西住民感情の対立と長期スト。連日の報道でほとんどアメリカの情報しか入ってこない日本とは、随分と違った視点で世界を見ることとなります。また、帰国して改めて日本のジャーナリズムの目が国内にばかり向けられているのにあきれさせられました。世界で何が起きているようと高校野球と統一協会の合同結婚式の方が大事な話題というのは理解に苦しみます。

仕事のことに話を戻すと、なんと言っても大学図書館について述べなければなりません。現在の蔵書数は、聞いて来なかったのですが、5年前で200万冊、英国内で出版される全ての著作物は全て献本されてきますから、現在の蔵書数は推して知るべしで、新しい書庫が、本館の裏側に増設されたばかりと言うのにさらに大規模な書庫の増設工事が進行中でした。この図書館の大きな特徴は、それら蔵書の多くが開架方式で収納されていることで、自分の目的のフロアで直接本を手にし、すぐそばの机で仕事が出来るといことです。勿論、蔵書データはコンピュータにインプットされていて、瞬時に検索が可能です。そのほかにも必要となれば、各コレジや学部、学科の図書館も利用できるわけです。日本では、いくら参考文献が示されていようと、それは私たちにとっては無い物ねだり、高嶺の花、いや遠隔地の温泉、端っからあきらめて孫引き、時にはひ孫引きなどで済ませてしまうことが多いのですが、ここではそれら全てに何の苦労もなく目を通すことが出来ます。そして、孫引きの恐ろしさを実感することになります。これは、日本人外国文学研究者にとって、なかなか解決のつかない問題なのですが、取り敢えず今は、こうして心いくまで原典に当たることが出来たことを喜びたいと思います。

筆者は、平成3年度文部省在外研究員（長期(甲)）として、平成3年9月26日から平成4年7月25日までの間「ジェイムズ・ジョイス研究」のため、ケンブリッジ大学（連合王国）等へ外国出張されました。

関 係 法 令

(政 令)

- 国家公務員等共済組合法施行令の一部を改正する政令(296) 9. 17

(省 令)

- 学校教員統計調査規則の一部を改正する省令(文部31) 8. 3
- 旅券法施行規則の一部を改正する省令(外務11) 8. 31
- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(文部32) 9. 30
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令(同33) 9. 30
- 教育公務員特例法施行令第1条の規定に基づく大学院に置かれる研究科の長を定める省令の一部を改正する省令(同34) 9. 30

(規 則)

- 計算証明規則の一部を改正する規則(会計検査院4) 8. 21
- 人事院規則9-2(俸給表の適用範囲)の一部を改正する人事院規則(人事院9-2-17) 9. 11
- 人事院規則9-5(給与簿)の一部を改正する人事院規則(同9-5-2) 9. 11
- 人事院規則16-0(職員の災害補償)の一部を改正する人事院規則(同16-0-13) 9. 11
- 人事院規則16-3(災害を受けた職員の福祉施設)の一部を改正する人事院規則(同16-3-16) 9. 11

(告 示)

- 平成5年度科学研究費補助金の課題を公募する件(文部96) 9. 4

諸 会 議

平成4年度第2回廃液処理施設運営委員会(8月4日) (議 題)

- (1) 廃液処理施設運営委員会委員長の選出について
- (2) 平成4年度運営予算について
- (3) その他

平成4年度第2回水素同位体機能研究センター運営委員会(8月29日)

(審議事項)

- (1) 平成3年度運営費決算書について
- (2) 平成4年度運営費予算書(案)について
- (3) 客員教授の選考について
- (4) その他

平成4年度第4回新教育課程実施委員会(9月7日) (議 題)

- (1) 教育改革に関する概算要求の状況について

(2) 意向調査について

- (3) 新教育課程の編成について
- (4) その他

平成4年度第6回附属図書館商議会(9月10日)

(審議事項)

- (1) 附属図書館自己点検評価委員会内規(案)について

平成4年度第7回評議会(9月11日)

(審議事項)

- (1) 富山大学自己点検評価規則の制定について
- (2) 富山大学教育学部附属学校規則の一部改正について
- (3) 平成4年度9月卒業者の認定について
- (4) その他

平成4年度第2回大学院委員会(9月11日)

(審議事項)

- (1) 平成4年9月富山大学大学院人文科学研究科(修士課程)修了者の認定について
- (2) 平成5年度富山大学大学院人文科学研究科(修士課程)学生募集要項について
- (3) 平成5年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)入学試験合格者の判定について
- (4) その他

平成4年度第5回事務協議会(9月14日)

(議 題)

- (1) 当面の諸問題について

平成4年度第1回自己点検評価委員会(9月21日)

(議 題)

- (1) 今後の点検評価の進め方等について
- (2) その他

平成4年度第2回情報処理センター運営委員会(9月21日)

(議 題)

- (1) 平成4年度予算(案)について
- (2) 富山大学高度情報ネットワーク専門委員会の設置と委員の推薦について
- (3) インターネット接続設備の要求について
- (4) 平成5年度からの情報処理科目の実施, 施設・設備の拡充とテキスト作成委員の委嘱について
- (5) 情報処理センター自己点検評価委員会内規の制定と委員の委嘱について
- (6) 次期情報システム導入日程と要求仕様作成委員, 技術審査委員の委嘱について
- (7) その他

平成4年度第4回入学試験実施委員会(9月22日)

(審議事項)

- (1) 入学試験実施委員会問題作成委員会委員について
- (2) 富山大学健康診断判定基準(案)について
- (3) 平成5年度富山大学学生募集要項(案)について

平成4年度第4回入学試験委員会(9月22日)

(審議事項)

- (1) 平成5年度富山大学学生募集要項(案)について
- (2) 平成6年度における入学者選抜第2試験の実施方式・日程等について

平成4年度第4回補導協議会(9月24日)

(審議事項)

- (1) 平成4年度体育系サークルリーダー研修会について
- (2) 体育部会規則の一部改正について
- (3) 平成4年度厚生補導研究会について
- (4) その他

平成4年度第8回評議会(臨時)(9月25日)

(審議事項)

- (1) 教養部教官の移行について
- (2) 教育改革に伴う実施整備の具体化を図るための委員会の設置について
- (3) その他

平成4年度第6回事務協議会(9月28日)

(議 題)

- (1) 当面の諸問題について

平成4年度第3回放射性同位元素総合実験室運営委員会(9月29日)

(議 題)

- (1) 放射性同位元素総合実験室自己点検評価委員会内規(案)について
- (2) その他

平成4年度第2回低温液化室運営委員会(9月30日)

(議 題)

- (1) 富山大学低温液化室自己点検評価委員会内規(案)について
- (2) その他

学 内 規 則

富山大学自己点検評価規則の制定

富山大学自己点検評価規則の制定理由

大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第2条及び大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第1条の2の趣旨に基づき、本学における教育研究活動等に関し、自己点検及び評価を実施するため、所要事項を定める。

富山大学自己点検評価規則を次のとおり制定する。

平成4年9月11日

富山大学長 小黒 千足

富山大学自己点検評価規則

（趣 旨）

第1条 この規則は、富山大学（以下「本学」という。）の教育研究水準の向上を図り、かつ、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動等の状況について自ら行う点検及び評価（以下「点検評価」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（全学委員会）

第2条 本学に、次の各号に掲げる事項を所掌するため、富山大学自己点検評価委員会（以下「全学委員会」という。）を置く。

- (1) 本学における点検評価の基本方針及び実施基準等の策定に関すること。
- (2) 本学における点検評価の実施に関すること。
- (3) 本学における自己評価の報告書の作成及び公表に関すること。
- (4) その他点検評価に関すること。

（組 織）

第3条 全学委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 各学部長及び教養部長
- (3) 各学部及び教養部から選出された評議員 各1名
- (4) 附属図書館長
- (5) 学生部長
- (6) 水素同位体機能研究センター長
- (7) 地域共同研究センター長

- (8) 保健管理センター所長
- (9) 情報処理センター長
- (10) 放射性同位元素総合実験室長
- (11) 低温液化室長
- (12) 廃液処理施設長
- (13) 自然観察実習センター長
- (14) 事務局長

（委員長）

第4条 全学委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、全学委員会を招集し、その議長となる。

（議 事）

第5条 全学委員会は、委員の半数以上が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

2 全学委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（専門委員会）

第6条 全学委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会委員は、学長が委嘱する。

3 専門委員会に関し必要な事項は、全学委員会が別に定める。

（実施部局）

第7条 点検評価を行う学部等（以下「実施部局」という。）は、次のとおりとする。

- (1) 各学部（各大学院研究科及び専攻科を含む。）

- (2) 教養部
- (3) 附属図書館
- (4) 水素同位体機能研究センター
- (5) 地域共同研究センター
- (6) 保健管理センター
- (7) 情報処理センター
- (8) 放射性同位元素総合実験室
- (9) 低温液化室
- (10) 廃液処理施設
- (11) 自然観察実習センター

(部局委員会)

第8条 実施部局に、当該実施部局の点検評価を行うため、実施部局自己点検評価委員会（以下「部局委員会」という。）を置く。

2 部局委員会に関し、必要な事項は、当該実施部局の長が定める。

(全学委員会の点検評価事項等)

第9条 全学委員会は、次の各号に掲げる事項について点検評価を行う。

- (1) 本学の教育理念・目標等に関する事。
- (2) 学生の受入れに関する事。
- (3) 学生生活への配慮に関する事。
- (4) 教育活動に関する事。
- (5) 研究活動等に関する事。
- (6) 教員組織に関する事。
- (7) 職員組織に関する事。
- (8) 国際交流に関する事。
- (9) 社会との連携に関する事。
- (10) 管理運営・財政に関する事。
- (11) 施設設備に関する事。
- (12) 自己点検・評価体制に関する事。
- (13) その他全学委員会が必要と認める事項

2 前項各号に掲げる事項に係る具体的な点検評価項目（以下「全学点検評価項目」という。）は、全学委員会が別に定める。

(部局委員会の点検評価事項等)

第10条 部局委員会は、次の各号に掲げる事項について点検評価を行う。

- (1) 当該実施部局教育理念・目標等に関する事。
- (2) 前条第1項第2号から第12号までに掲げる事項のうち当該実施部局に係る事項
- (3) その他実施部局委員会が必要と認める事項

2 前項第1号及び第2号に掲げる事項に係る点検評

価項目（以下「部局点検評価項目」という。）は、前条第2項に定めるもののほか、部局委員会が別に定める。

(点検評価の実施)

第11条 全学委員会及び部局委員会は、毎年度点検評価を行う。

2 全学委員会は、全学点検評価項目のうちから、当該年度に行う点検評価の項目を定める。

3 部局委員会は、部局点検評価項目のうちから、当該年度に行う点検評価項目を定める。

(自己評価の報告書の作成及び公表)

第12条 全学委員会は、点検評価の結果を取りまとめ、年次報告書として公表する。

2 実施部局に係る点検評価の取りまとめ及び公表については、部局委員会が別に定める。

(点検評価結果の対応)

第13条 学長及び実施部局の長は、全学委員会及び部局委員会が行った点検評価の結果に基づき、改善が必要と認められるものについては、その改善に努める。

2 学長は、全学に係る事項で、関連する学内の委員会において改善策を検討することが適当と認められるものについては、当該委員会に付託する。

3 学長は、実施部局に係る事項で、全学委員会が行った点検評価の結果に基づき、特に改善が必要と認められるものについては、当該実施部局の長にその改善の検討を求めることができる。

(庶務)

第14条 全学委員会の庶務は、庶務部庶務課において処理する。

(雑則)

第15条 この規則に定めるもののほか、点検評価に関し必要な事項は、全学委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成4年9月11日から施行する。

富山大学自己点検評価委員会専門委員会要項の制定

富山大学自己点検評価委員会専門委員会要項の制定理由

富山大学自己点検評価委員会において専門の事項を検討するため、富山大学自己点検評価規則第6条に基づく専門委員会についての必要な事項を定める。

富山大学自己点検評価委員会専門委員会要項

(趣 旨)

第1条 この要項は、富山大学自己点検評価規則（以下「規則」という。）第6条第3項の規定に基づき、富山大学自己点検評価委員会専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(専門委員会)

第2条 富山大学自己点検評価委員会（以下「全学委員会」という。）に、点検評価の具体的な事項を処理するため次の各号に掲げる専門委員会を置く。

- (1) 教育活動専門委員会
- (2) 研究活動等専門委員会
- (3) 管理運営専門委員会

(専門委員会の任務)

第3条 各専門委員会は、規則第9条第1項に規定する点検評価事項のうち、次の事項にかかる専門的事項について分掌する。

- (1) 教育活動専門委員会
 - ① 本学の教育理念・目標等に関すること。
 - ② 学生の受入れに関すること。
 - ③ 学生生活への配慮に関すること。
 - ④ 教育活動に関すること。
 - ⑤ 国際交流に関すること。（研究活動等に関することを除く。）
- (2) 研究活動等専門委員会
 - ① 研究活動等に関すること。
 - ② 国際交流に関すること。（教育活動に関することを除く。）
 - ③ 社会との連携に関すること。
- (3) 管理運営専門委員会
 - ① 教員組織に関すること。
 - ② 職員組織に関すること。
 - ③ 管理運営・財政に関すること。
 - ④ 施設設備に関すること。
 - ⑤ 自己点検・評価体制に関すること。

2 各専門委員会は、前項に掲げるもののほか、全学委員会において必要と認める事項にかかる専門的事項について分掌するものとする。

(組 織)

第4条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、第2条各号に掲げる専門委員会のいずれかに所属する。

- (1) 規則第3条第3号の委員（評議員）
- (2) 規則第3条第4号の委員（附属図書館長）
- (3) 規則第3条第5号の委員（学生部長）
- (4) 規則第3条第14号の委員（事務局長）
- (5) 各学部長及び教養部長から推薦された教官各3名

2 各専門委員会の構成は、全学委員会が定める。

(任 期)

第5条 前条第1項第5号の委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(主査及び副主査)

第6条 各専門委員会に主査及び副主査を置き、第4条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 主査は、専門委員会を招集し、その議長となる。ただし、主査に事故あるときは、副主査がその職務を行う。

(定 足 数)

第7条 専門委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立する。

(意見の聴取)

第8条 専門委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(庶 務)

第9条 専門委員会の庶務は、庶務部庶務課において処理する。

附 則

この要項は、平成4年9月21日から実施する。

富山大学自己点検・評価に関する検討委員会規則の廃止

富山大学自己点検・評価に関する検討委員会規則を廃止する規則の制定理由

平成4年9月11日付けで富山大学自己点検評価規則が制定され、自己点検及び評価の実施体制が整い、委員会の任務が終了したため廃止する。

富山大学自己点検・評価に関する検討委員会規則を廃止する規則

富山大学自己点検・評価に関する検討委員会規則（平成3年11月22日制定）は廃止する。

附 則

この規則は、平成4年9月11日から施行する。

富山大学教育学部附属学校規則の一部改正

富山大学教育学部附属学校規則の改正理由

平成4年3月23日付け文初小第119号・文部事務次官通達に基づき、附属小学校、中学校、養護学校及び幼稚園において、平成4年度の第2学期から毎月の第2土曜日を休業日とする学校週5日制を実施するため、所要事項を改める。

富山大学教育学部附属学校規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成4年9月11日

富山大学長 小黑 千足

富山大学教育学部附属学校規則の一部を改正する規則

富山大学教育学部附属学校規則（昭和41年1月17日制定）の一部を次のように改正する。

第6条中第7号を第8号とし、第3号から第6号までを1号ずつ繰下げ、第2号の次に次の1号を加える。

(3) 毎月の第2土曜日

附 則

この規則は、平成4年9月11日から施行する。

富山大学教育改革整備委員会規則の制定

富山大学教育改革整備委員会規則の制定理由

教育改革の実施に必要な諸条件の整備に係る具体的な事項を審議し、必要な実施計画を策定するため、所要事項を定める。

富山大学教育改革整備委員会規則を次のとおり制定する。

平成4年9月25日

富山大学長 小黑 千足

富山大学教育改革整備委員会規則

(設 置)

第1条 富山大学に富山大学教育改革整備委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目 的)

第2条 委員会は、教育改革の実施に必要な諸条件の整備に係る具体的な事項を審議し、必要な実施計画を策定するものとする。

(組 織)

第3条 委員会は、各学部及び教養部から選出された評議員1名を含む教官各2名をもつて組織する。

(委 員 長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって定める。

(定 足 数)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立する。

(専門委員会)

第6条 委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会の委員は、第3条に定める委員のほか、専門委員会が必要と認める者若干名を加えることができる。

(庶 務)

第7条 委員会の庶務は、庶務部庶務課において処理する。

附 則

1 この規則は、平成4年9月25日から施行する。

2 委員会は、その任務が終了したとき解散するものとする。

富山大学大学教育改善検討委員会規則の廃止

富山大学大学教育改善検討委員会規則を廃止する規則の制定理由

富山大学大学教育改善検討委員会答申に基づき、平成5年度から4年一貫教育を実施し、教養部を廃止することに伴い、教育改革に必要な整備を行うため、平成4年9月25日富山大学教育改革整備委員会規則が制定された。これにより、富山大学大学教育改善検討委員会の任務が終了したため廃止する。

富山大学大学教育改善検討委員会規則を廃止する規則

富山大学大学教育改善検討委員会規則（平成3年5月10日制定）は廃止する。

附 則

この規則は、平成4年9月25日から施行する。

叙

位

元本学教授佐々木龍作氏は、平成4年8月30日逝去（享年85才）されましたが、同氏の生前の功績に対し、同日付けで正四位に叙されました。

レ ク リ エ ー シ ョ ン

本学チームが優勝と次勝!!

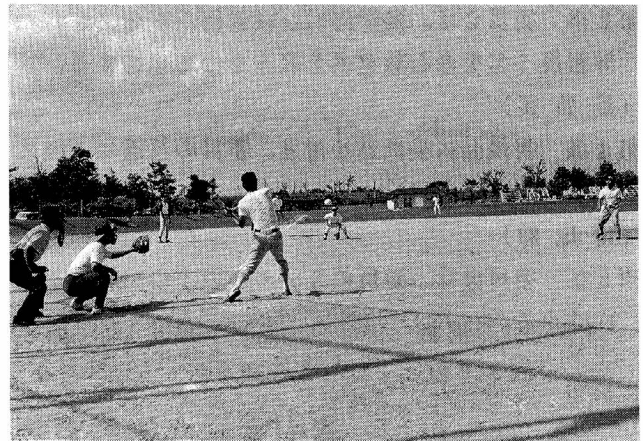
平成4年度全国公務員レクリエーション共同行事富山地区ソフトボール大会

平成4年度全国公務員レクリエーション共同行事富山地区ソフトボール大会が、9月2日(水)常願寺川公園野球場において開催されました。

今大会には、14機関から16チームの参加があり、本学からはA、B、Cの3チームが参加しました。

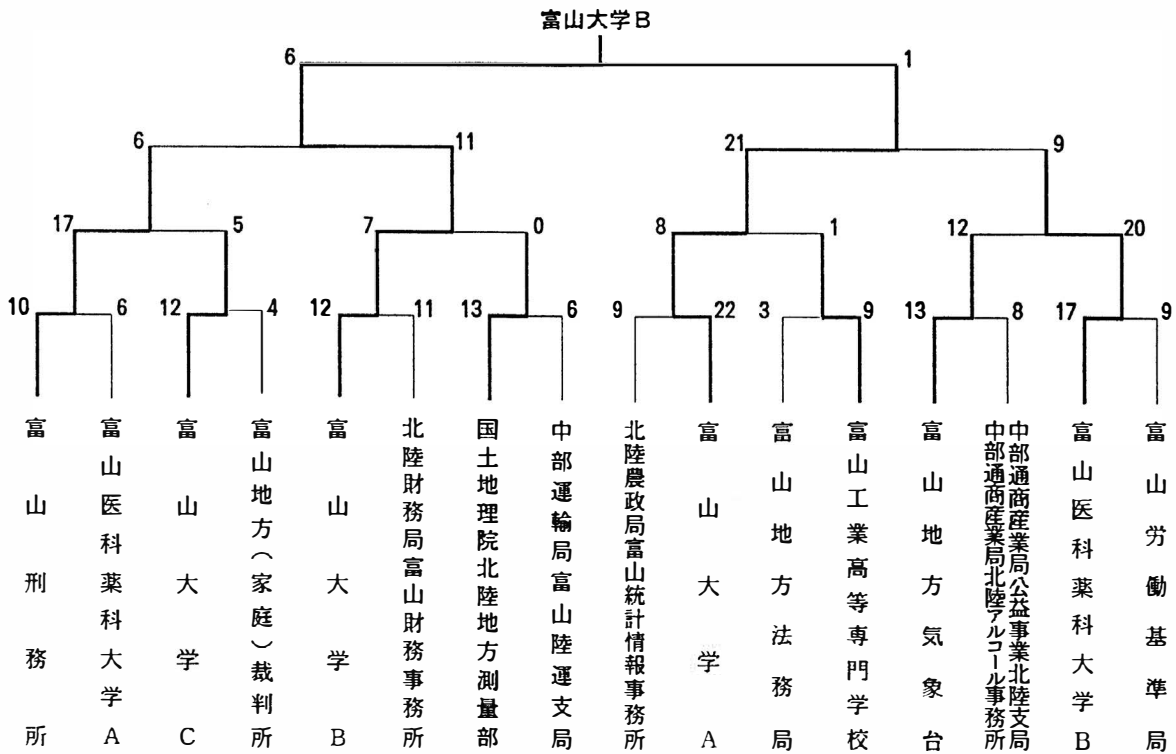
本学チームは、よく健闘し、決勝戦はAチームとBチームの対戦となり、Bチームが優勝しました。

なお、大会結果は次のとおりでした。



▲ 残暑の中熱戦を繰り広げる本学チーム

- 優 勝 富山大学Bチーム
- 次 勝 富山大学Aチーム
- 三 位 富山刑務所
- 〃 富山医科薬科大学Bチーム



平成4年度文部省富山地区共同事業体育大会

平成4年度文部省富山地区共同事業体育大会（ボーリング大会）が、去る9月5日（土）立山グランドボールにおいて開催されました。

当日は、富山県内6機関がボーリングに熱戦を繰り広げ、さわやかな汗を流しました。

予選リーグでは、A～Dゾーンの4つのゾーン各4チームに分かれ、本学からは各ゾーン1チームずつ計4チームが参加しました。決勝リーグへは富大Dチームが出ましたが、惜しくも入賞はなりませんでした。

なお、大会結果は、優勝は富山医科薬科大学Aチーム、次勝は富山医科薬科大学Cチームでした。



▲ 文部省関係県内6機関の代表が出場し、熱戦を繰り広げたボーリング大会

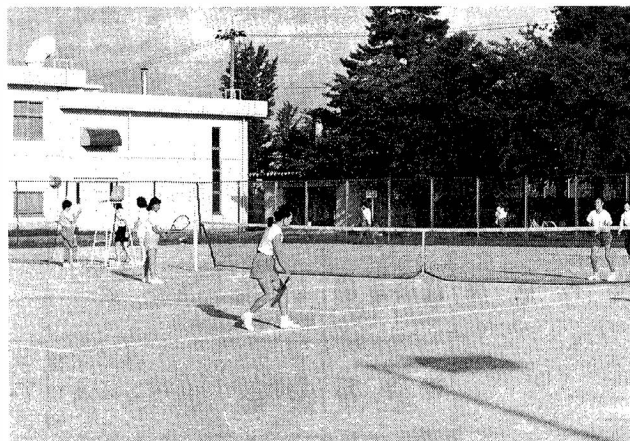
学内レクリエーション

<庭球大会>

本学レクリエーション委員会体育部会庭球班主催、文部省共済組合富山大学支部共済による平成4年度学内硬式テニス大会が、去る9月19日（土）本学庭球場において実施されました。

大会は、完全週休二日制実施後、初めて土曜日の開催となりましたが、約60名の参加者を得て、男子8チーム（部局対抗のダブルスによる団体戦）及び女子6チーム（ダブルスによる個人戦）により行われ、成績は次のとおりでした。

- 男子（団体戦）
 - 優勝 教養部
 - 次勝 人文学部・附属図書館
- 女子（個人戦）
 - 優勝 長崎（教）・沢崎（図）ペア
 - 次勝 奥田（教）・三浦（教）ペア



▲ 平成4年度学内庭球大会

<釣大会>

本学レクリエーション委員会娯楽部会釣班、文部省共済組合富山大学支部共済による平成4年度学内釣大会が、去る9月19日（土）午後1時30分から富山新港東防波堤において実施されました。

大会は、16名の参加者により行われ、成績は次のとお

りでした。

（入賞者）

- 一位 田中 祥男（教育学部）
- 二位 植吉 和政（経理部）
- 三位 竹下 義美（教育学部）

海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先の国	目的	期間
外国出張	人文学部	助教授	水内 俊雄	ドイツ	西ヨーロッパ諸国とトルコの都市空間構造に及ぼすトルコ移住民に関する社会地理学的研究のための現地調査	4. 8. 14) 4. 9. 26
	理学部	助教授	岡部 俊夫	アメリカ合衆国	第10回国際結晶成長学会に出席ため	4. 8. 15) 4. 8. 23
	教育学部	教授	野村 昇	中国	遼寧大学との学术交流及び異性体の分離に関する研究のため	4. 8. 20) 4. 9. 19
	経済学部	教授	飯田 剛史	アメリカ合衆国 カナダ	北米における多民族状況についての比較社会学的研究	4. 8. 31) 4. 10. 15
	理学部	教授	鈴木 正昭	アメリカ合衆国	多変数関数論の研究のため (文部省在外研究員)	4. 9. 1) 4. 10. 31
	経済学部	助教授	伊藤 良弘	大韓民国	国際共同研究会参加他	4. 9. 3) 4. 9. 8
	工学部	助手	佐々木基文	シンガポール	オートメーション、ロボティクス及びコンピュータビジョンに関する第2回国際会議に出席、研究、発表	4. 9. 14) 4. 9. 19
	人文学部	助教授	末原 達郎	ベルギー、ケニア、 タンザニア、イタリア	食糧生産に関するフィールド調査のため、他	4. 9. 18) 4. 10. 11
	教養部	教授	藤井 昭二	ロシア	バイカル湖ボーリングデータ、文献資料の収集他	4. 9. 23) 4. 10. 7
	〃	助教授	竹内 章	〃	〃	〃
海外研修	経済学部	助教授	芳賀 健一	フランス	OECD開発センター主催の「東アジアの環境管理」に関するワークショップに出席	4. 8. 2) 4. 8. 13
	理学部	助教授	久保 文夫	アメリカ合衆国	ワークショップ「数域と数域半径」に出席及び研究打合せ	4. 8. 9) 4. 8. 25
	教養部	教授	小島 覚	ロシア	北日本及びカムチャッカ半島の植生に関する比較生態学的研究	4. 8. 14) 4. 9. 1
	経済学部	教授	和合 肇	スウェーデン デンマーク フランス	経済モデルに関する国際シンポジウム出席、他	4. 8. 17) 4. 8. 31
	経済学部	教授	古田 俊吉	大韓民国	国際財政学会第48回会議に出席及び研究打合わせ、他	4. 8. 22) 4. 8. 29
	教育学部	教授	中谷 唯一	ドイツ、フランス	国際野外彫刻展見学と研究他	4. 8. 22) 4. 8. 29
	教養部	助教授	溝口 常俊	アメリカ合衆国	近代農村社会における地域システムとその変容に関する研究、他	4. 8. 25) 5. 8. 9

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先の国	目的	期間
海外研修	理学部	助教授	細野 忍	アメリカ合衆国	弦理論の代数幾何学的側面の研究	4. 9. 1 } 5. 8. 31
	工学部	講師	小出 真路	ドイツ	IAU国際会議出席, 他	4. 9. 3 } 4. 9. 18
	教育学部	教授	栗原 幹夫	ドイツ, オランダ, ベルギー	欧州各国の教材収集と学校見学のため	4. 9. 4 } 4. 10. 11
	教育学部	教授	竹内 茂彌	中 国	ファインケミストリーと機能性高分子に関する国際シンポジウムに出席, 研究発表他	4. 9. 6 } 4. 9. 19
	工学部	教授	島崎長一郎	“	“	“
	人文学部	助教授	前川 要	連 合 王 国	中世ヨーロッパ1992ヨーロッパ中世考古学会議に出席 他	4. 9. 18 } 4. 9. 28
	教育学部	講師	徳橋 曜	イ タ リ ア	中世フィレンツェ史に関する資料の調査・研究	4. 9. 19 } 4. 10. 13
	経済学部	助教授	新里 泰孝	オランダ王国, 連 合 王 国, アメリカ合衆国	「日蘭英国花き球根産業」の研究に関する資料収集	4. 9. 22 } 4. 10. 16

職 員 消 息

《新任者住所》

教育学部

文部技官 河岸 宏和
(生物学)

工学部

助 手 田 原 稔
(知識情報工学)

教養部

助 教 授 伊 藤 美重子
(中国語)

《住所変更》

教育学部附属中学校

教 諭 岩 田 万里子
(保健体育)

経済学部

助 教 授 茂 垣 広志
(経営学)

工学部

教 授 松 本 幸生
(制御システム工学)

教養部

教 授 神 徳 昭甫
(英語)

計	報
---	---

富山大学名誉教授 佐々木龍作氏 逝去



本学名誉教授佐々木龍作氏が、平成4年8月30日、心肺機能不全のため逝去されました。享年85歳。

同氏は、昭和6年3月京都帝国大学文学部史学科を卒業後、同年4月富山県師範学校教諭心得兼富山県立実業補習学校教員

養成所教諭心得、同年6月富山県師範学校教諭兼富山県立実業補習学校教員養成所教諭、同8年8月富山女子師範学校教授嘱託、同年11月富山県師範学校舎監兼任、同11年3月富山県立青年学校教員養成所教諭に兼任、同17年1月富山高等学校講師を嘱託、同年9月富山県師範学校教諭、同18年4月富山県師範学校の官立移管に伴い富山師範学校教授、同24年5月法律第150号により同校が富山大学に包括されたことに伴い、同年富山大学助教授を経て同33年8月富山大学教授となり、同48年4月停年退官されました。

また、退官後も引き続き聖徳学園聖徳女子短期大学及び同学園岐阜教育大学教授に就任し、同50年3月聖徳学園を退職後、同年4月北陸大学教授に就任し、同53年3月同大学を退職されました。

同氏は、富山師範学校並びに同行を包括した富山大学教育学部において42年間の永きにわたり歴史学並びに歴史学教育法を講じられるとともに、熱意を持って日々直接学生の教育指導に当たり、優秀な人材を養成して教育界をはじめ各方面へ輩出されました。

この間郷土研究のため、富山史学会、越中郷土研究会を創設して会長として会員の指導に当たられ、今日越中史壇会の主要メンバーとして地方史研究に

成果をあげている研究者の多くを育てられました。

この間富山大学在職中、昭和36年9月から昭和40年9月まで2期にわたり富山大学学生部長を併任し、学生の厚生補導における統括的な役割を十分に果たし、学生指導に尽力されました。また、同年12月から同45年3月まで富山大学教育学部附属小学校長及び同幼稚園長を併任し、附属学校園の管理運営に努めるとともに、附属小学校及び附属幼稚園の新校(園)舎を竣工させるなど、同校・園の発展に多大な貢献をされました。

また、富山大学一般教育委員会委員、同補導協議会委員、同認定講習委員会委員等学生の教育及び厚生補導に関する全学的委員会の委員を勤めて中心的な役割を果たし、大学全体の運営及び発展に寄与されました。さらに昭和28年、同30年、同39年の3回にわたり文部省の教科用図書検定調査審議会の調査員に併任され、教科用図書検定調査にも尽力されました。

同氏の研究功績としては、同氏の本来の専攻である西洋近代史の分野では、「民族」の歴史的本質を究明する立場から、「ナショナリズム」の概念を通じて西洋近代史解明の一方法を提案したこと、教員養成機関に長年奉職し、歴史学の講義を行っていたことから、歴史学と歴史教育との緊密な関係を分析解明し、かつ児童、生徒の歴史意識の調査を通じて歴史教育の可能年齢を解明したこと、また一方、郷土研究に関してお国自慢的な郷土研究を民族学的手法などによって学問的研究に高める先駆的役割を果たしたこと等があげられます。

これらの功績により、昭和48年4月富山大学名誉教授の称号を授与され、次いで、同53年4月勲三等旭日中綬章を受章されました。

ここに、同氏の御功績を偲び顕彰するとともに、御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

主 要 行 事

本 部

- 8月3日 部課長会議
 4日 第2回廃液処理施設運営委員会
 6日 第7回新教育課程実施委員会作業部会
 10～31日 富山大学公開講座「情報空間体験講座」
 17日 富山大学公開講座「健康・スポーツ教室」
 (ジョキング・ランニングコース)(9/5まで)
 20～21日 第25回東海・北陸・近畿地区経理系部長会議
 (於：名古屋工業大学)
 25日 平成5年度入学者選抜大学入試センター
 試験入試担当者連絡協議会
 (於：岐阜キャッスルホテル)
 25～26日 留学生の受入れ対策に関する行政監察
 25～31日 平成4年度公開講座「健康・スポーツ教室」
 (硬式テニスコース)
 26日 第8回新教育課程実施委員会作業部会
 27日 第2回学園ニュース編集委員会
 9月2日 平成4年度全国公務員レクリエーション
 共同事業富山地区ソフトボール大会
 (於：常願寺川公園)
 2～3日 国有財産実態調査
 4日 部課長会議
 7日 消防立入検査
 第9回新教育課程実施委員会作業部会
 第4回新教育課程実施委員会
 8～10日 第1回(平成4年度)北陸地区国立学校技
 術職員(教室系)研修(於：金沢大学, 辰
 口共同研修センター)
 10日 第5回部局長懇談会
 11日 第7回評議会
 第2回大学院委員会
 12日 大学の地域における社会的連携・協力推進
 のためのイベント「聴いて・見て・触れて
 -おもしろ夢大学 in TOYAMA -」
 14日 第5回事務協議会
 16～18日 平成4年度留学生担当者研修会
 (於：国立中央青年の家)
 第1回体育部会
 17日 東海北陸地区管理事務協議会(於：静岡大学)

- 18日 東海北陸地区国立学校等庶務部課長会議
 (於：静岡大学)
 衆議院文教委員会委員の視察
 19日 平成4年度学内硬式庭球大会(於：富山大
 学軟式庭球場)
 平成4年度学内釣大会(於：富山新港東防
 波堤)
 21日 第1回自己点検評価委員会
 第2回情報処理センター運営委員会
 第43回文部省会計事務特別研修(10/9ま
 で)
 第10回新教育課程実施委員会作業部会
 22日 第4回入学試験実施委員会
 第4回入学試験委員会
 24日 第3回国際交流委員会学術交流部会
 第4回補導協議会
 25日 第8回評議会(臨時)
 第6回部局長懇談会
 26日 富山大学公開講座「環日本海時代を考える」
 (11/7まで)
 28日 第6回事務協議会
 28～30日 第1回(平成4年度)富山地区国立学校技
 術職員研修
 平成4年度富山地区国立学校事務電算化要
 員養成研修会(10/2まで)
 28～29日 外国人留学生との懇談会(於：国立能登青
 年の家)
 29日 第3回放射性同位元素総合実験室運営委員会
 30日 部課長会議
 第2回低温液化室運営委員会
 第5回入学者選抜方法研究委員会専門委員
 会
 体育系サークルリーダー研修会(於：山野
 スポーツセンター)(10/2まで)

人文学部

- 9月1日 学部防火管理定期査察
 2日 時間割担当者会議
 学部教務委員会

- 3日 学部入学者選抜方法検討委員会
係長会議
- 7日 人文科学研究科教務等検討委員会
- 9日 教授会
教授会（人事）
研究科委員会
- 14日 前学期授業終了
- 16日 係長会議
- 17日 係長会議
- 24日 教授会
教授会（人事）
研究科委員会

教育学部

- 8月7日 カリキュラム委員会
- 25日 附属学校運営協議会（持回り）
- 29日 附属小学校第2学期始業式
- 31日 附属中学校第2学期始業式
附属養護学校第2学期始業式
- 9月1日 学部補導委員会
附属幼稚園第2学期始業式
- 1～3日 教員養成実地指導（事前指導）
- 3日 教育実習運営協議会
- 7日 学部補導委員会
- 8日 入学者選抜方法検討委員会
人事教授会
- 9日 学部教務・補導合同委員会
学部教務委員会
教授会
- 17日 学部教務・補導合同委員会
- 21日 予算委員会
入学者選抜方法検討委員会
- 24～25日 平成4年度北陸地区教員養成学部事務長協
議会（於：富山大学）
- 29日 大学院設置準備委員会
- 30日 学位記授与式

経済学部

- 8月26日 経済学部長候補者選挙
教授会
- 28日 係長会議

- 31日 日本海経済研究所運営委員会
財務委員会
- 9月1日 授業再開（経済学部，大学院経済学研究科
とも）
- 2日 学部教務委員会
学部入学方法検討委員会
人事教授会
教授会
日本海経済研究所公開講演会
- 4日 学部教育改善検討委員会
- 7日 経済学部前学期授業終了
- 9日 大学院経済学研究科委員会小委員会
大学院経済学研究科委員会
- 14日 大学院経済学研究科前学期授業終了
- 16日 係長会議
各種委員選考委員会
学部教務委員会（持ち回り）
- 24日 学部教務委員会
人事教授会
教授会
- 25日 係長会議
- 28日 学部将来構想検討委員会
財務委員会
コンピュータ管理運営委員会
学部施設整備委員会
日本海経済研究所運営委員会
学部等図書委員会
係長会議
- 30日 平成5年度大学院経済学研究科（修士課程）
入学試験経済学部学位記授与式

理学部

- 9月1日 学部防火管理定期査察
- 2日 大学院構想推進委員会
- 3～4日 大学院理学研究科（修士課程）入学者選抜
試験
- 3日 係長会議
- 8日 学部入試改善委員会
- 9日 教授会
研究科委員会
人事教授会
- 11日 大学院理学研究科（修士課程）合格者発表

- 14日 大学院構想推進委員会教務部会
前学期授業終了
16日 係長会議
17日 係長会議
22日 人事教授会
28日 大学院構想推進委員会教務部会
29日 学部動物実験委員会（持回り）

工 学 部

- 8月4日 博士課程設置準備委員会
技官連絡会
11日 技官連絡会
26日 第19回北陸三大学工学部スポーツ交歓会
（於：富山大学）
28日 学部拡大教務委員会
9月7日 学部教務委員会
消防署立入検査
8日 学部入学試験検討委員会
係長連絡会
8～10日 第1回北陸地区国立学校技術職員（教室系）
研修（於：金沢大学）
9日 教授会
工学研究科委員会
専任教授会
12日 大学と地域との連携協力推進イベント「聴
いて、見て、触れて - おもしろ夢大学 in
TOYAMA -」
16日 教授会
17日 共通機器運営委員会
22日 前学期授業終了
28日 第1回富山地区国立学校技術職員研修
30日 博士課程設置準備委員会

教 養 部

- 9月4日 内地・在外研究員に関する委員会
7日 富山消防署立入検査
前学期授業終了
8日 将来計画委員会
9日 人事教授会
教授会
11日 前学期末試験開始

- 14日 動物実験委員会
25日 前学期末試験終了
29日 将来計画委員会・教務委員会合同委員会
30日 補導委員会
人事教授会
教授会

附属図書館

- 8月20～ 平成4年度東海北陸地区著作権セミナー
21日 （於：富山県中小企業研修センター）
25日 係長連絡会
9月8日 係長連絡会
10日 第6回附属図書館商議会
16日 係長連絡会
富山市立図書館協議会（於：富山市立図書館）
21日 平成4年度総合目録データベース実務研修
（於：学術情報センター）（10月16日まで）

水素同位体機能研究センター

- 8月3日 第2回水素同位体機能研究センター運営委
員会
8月12日 第3回水素同位体機能研究センター運営委
員会（持ち回り）
9月1日 人文学部，理学部，教養部，及び水素同位
体機能研究センター防火管理内規に基づく
定期検査
7日 富山消防署査察
24日 R1施設定期検査
29日 平成4年度第4回水素同位体機能研究セン
ター運営委員会

地域共同研究センター

- 8月3～ 産学研究実践講座新素材Aコース
6日
24～27日 産学研究実践講座新素材Bコース
24～27日 先端技術研修メカトロコース
9月3日 先端技術研修 情報処理コース
9日 大学院生教育講座
12日 大学と地域との連携協力推進イベント「聴
いて、見て、触れて - おもしろ夢大学 in

TOYAMA -」

18日 技術セミナー

24日 経営者研究者交流会第2回実行委員会

30日 地域共同研究センター運営委員会

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話 (24) 1755代